

第52回 懇話会 2017年9月12日(火)

～アルゼンチンタンゴに魅せられて～ 山根 光生

オルケスタ・デ・タンゴ・ワセダ

65周年記念パーティ 2016年9月9日 全員集合



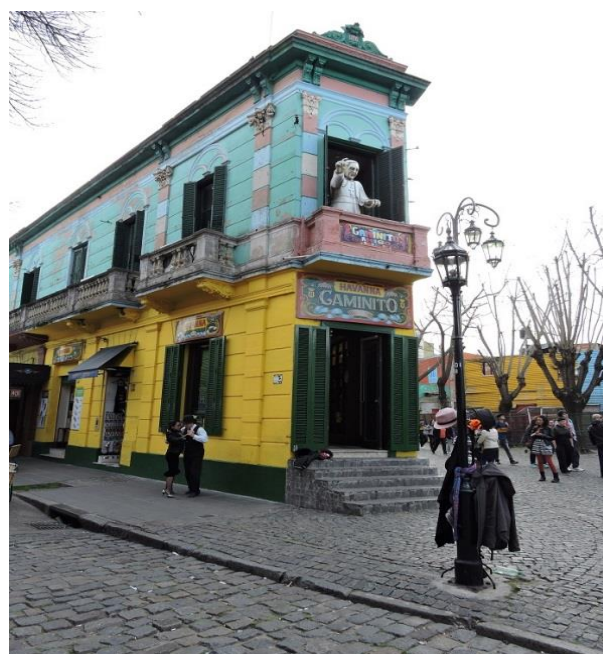
学生時代、早稲田の「オルケスタ・デ・タンゴ・ワセダ」に所属。慶應には「KBRタンゴアンサンブル」、中大には「ルナ・タンゴアンサンブル」の三つのタンゴバンドがありました。今ではタンゴ・ワセダだけが生き延びており、今年で創立76周年を迎えます。

活動期間は4年間という制限があり、バンドネオンという特殊な楽器を使用するため楽団を維持するのは至難の業と言えます。



タンゴの起源

タンゴ発祥の地 カミニート



タンゴは哀愁より生まれた。それはアルゼンチンが移民の国だから。タンゴはブエノスアイレスの下町ボカ区で誕生。発祥は船乗りと酒場の女が怪しげなダンスを踊る猥雑な音楽でした。タンゴは厳密には首都ブエノスアイレスの音楽。先住民の音楽はインディオのフォルクローレと言われています。

建物がカラフルなのは、船のペンキの残りを使用しているため。

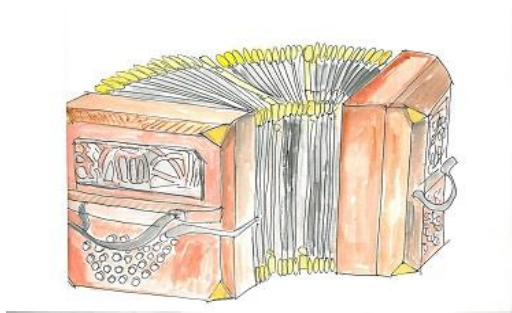
La Cumparsita

タンゴと言えば代表曲はラ・クンパルシータですが、アルゼンチンで生まれたものでなく隣国ウルグアイの学生が作曲したものです。

行列を意味します。この曲は世界中のどこかで24時間途切れることがなく演奏されているといわれています。

バンドネオンの登場

タンゴは当初、ピアノ・ギター・フルート・ヴァイオリンなどで演奏されていました。1890年代ドイツから持ち込まれたバンドネオンというリード・蛇腹楽器で様変わりしました。哀愁を帯びた音色がタンゴのメロディにマッチしたようです。タラレバの話ですが、バンドネオンが海を渡らなかつたら、タンゴの隆盛はなかったのではとされています。



バンドネオンは別名「悪魔の楽器」と呼ばれ、左 50個・右50個計100個のボタンが付いています。音階は左右まったくアットランダムでさらに同じボタンでも押しと引きでは音が異なるため、都合200の音階を覚える必要があります。コンチネンタルタンゴではアコーディオンが使用されていますが、本体が金属で作られており、少し音色が堅い印象を受けます。

リード楽器の切ない音色がタンゴの哀愁を帯びたメロディにマッチしたことが大きいようです。

1910年ごろ「オルケスタ・ティピカ」が登場。

「オルケスタ・ティピカ」は標準編成のオーケストラの意味。ピアノ・コントラバス・バンドネオン・ヴァイオリンで編成。

歌手カルロス・ガルデルの登場

更に1917年カルロス・ガルデルという歌手が登場（我が悲しみの夜）して、まともな音楽として認知されるようになりました。ガルデルは1935年6月20日コロンビアのメデ

ジン空港で飛行機事故により亡くなりました。6月20日は美空ひばりの亡くなった日と奇しくも同じです。この二人の大歌手の共通点はサビの部分抜いて歌い聞かせる点です。

ガルデルは映画にも多く出演し、ニューヨークでも人気を博していました。

淡々とし抑制した唱法ですが「ガルデルは今でも日々歌が上達している」と言われており、CDやレコードは現在でも売れ続けており、一級のスターとしての地位を持ち続けています。



タンゴの唄

タンゴの歌も演歌同様失恋の内容が多いです。演歌は酒・涙・港がキーワードで薄幸な女性をテーマとしています。一方タンゴは女性に振られた男性がやけになってシャンパンをあおるとというのが太宗です。

日本のタンゴバンド

日本では早川真平とオルケスタ・ティピカ東京、坂本政一とオルケスタ・ティピカ・ポルテニア、歌手では藤沢嵐子や阿保郁夫、最近ではバンドネオンの小松亮太が有名。

古賀政男と親交のあったマリアノ・モーレスが作曲した「タンゲーラ」という曲には荒城の月に似たメロディが出てきます。天地真理の「小さな恋」のメロディは「HOTEL VICTRIA」と全く同じメロディが登場します。

藤沢嵐子



藤沢嵐子+阿保郁夫



阿保郁夫

Tango del amor
IKUO ABO
JOSE COLANGELO y su Orquesta Típica



レコータ墓地 (エビータ・エバ・ペロンの墓)



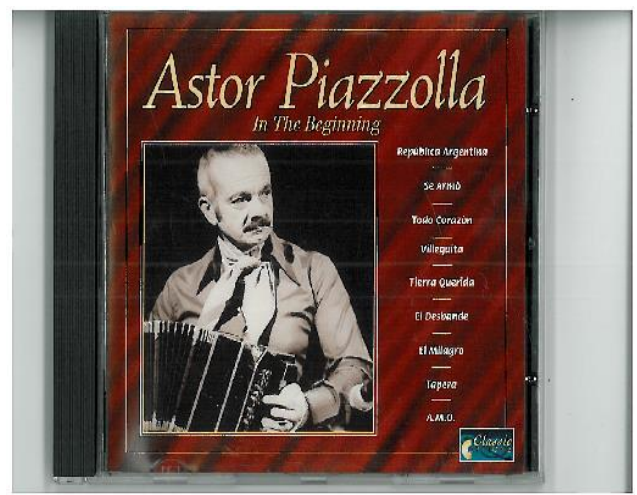
タンゴの演奏スタイル

同じ曲でも楽団によって演奏スタイルが全く異なります。

- ・ファン・ダリエンソ (派手)
- ・カルロス。ディサルリ (メロディをじっくり)
- ・オスヴァルド・プグリエーセ (リズム)

アストル・ピアソラの登場

保守的で典型的な古典タンゴに対してアストル・ピアソラがエレキギターやドラムを導入しクラシックやジャズの要素を入れたモダンタンゴに挑戦。しかし古典的なタンゴを愛する人たちに受け入れられず失意の中、ニューヨーク・ヨーロッパに活路を求めました。そこで斬新な音楽が爆発的な人気を博しました。ヨーヨーマの演奏で有名な「リベルタンゴ」はご存じな方も多いと思います。



南米の印象

2年前アルゼンチンに行きましたが LAN 航空の機体が滑走路に着陸すると機内で拍手が沸き上がってびっくりしました。国民性の違いでしょうか。南米を飛行機で移動中はピアソラやガルデルのタンゴがイヤホンで楽しみ快適でした。

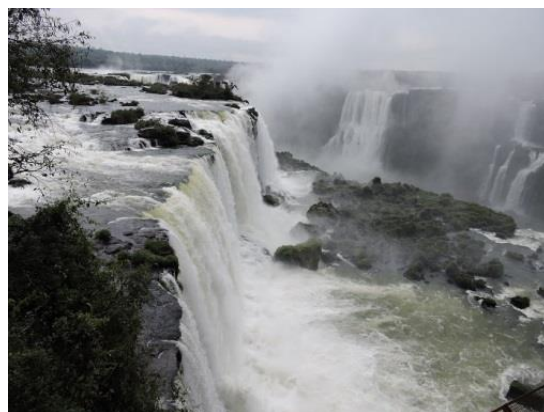
パンアメリカンハイウェイ（アラスカからチリまで4万8千キロ（ナスカ遺跡縦断）



氷のカーテン（ブラジル側）



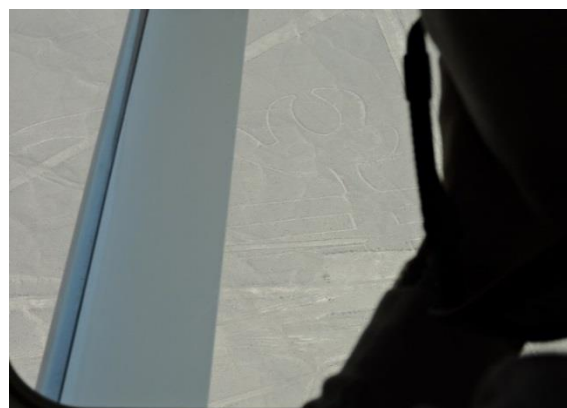
マチュピチュ遺跡



ナスカの地上絵



ペルークスコ 12角の石（触手禁止）



タンゴ喫茶 ミロンガ



悪魔の喉笛（アルゼンチン側）

